TOHSANKAI INFO / No.12 August1, 2005

稲山会 通信

第12号
2005年 8 月 1 日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

来年2006年は早稲田大学山の会、稲門山の会の創立50周年です。
山の会として年代と共にある時は華々しく、また苦渋の時代もありました。
しかし山の会を愛する各時代の現役の皆様が、また卒業生OB・OGの皆様が、その時代に情熱を持って、長い年月にわたり、登山活動と会運営を継続し、山の会、稲門山の会を何時も盛り上げて来た歴史のもとに、ここに50周年を迎える事が出来るのです。これも皆様の山の会への熱い情熱と感謝しております。
創立50周年を、現役、OBG皆様が一緒になって、記念行事をサポートし、参加してお祝い致したくここに御願い申し上げます。（稲門山の会役員会）

創立50周年記念行事のワーキンググループを編成しました。

今年３月に記念行事の各ワーキングGを編成致しまして、来年の記念行事の計画立案等を精力的に進めております。今後まだまだやるべき事が多く役員会、WGは苦慮しております。OBGの皆様が少しでもお手伝い戴ければ大変助かりますので、是非お手伝いをここに御願い申し上げる次第です。役員会メンバー又はメール担当笠原幹事までご連絡をお待ちしております。

各WGのメンバー：

① 50周年記念誌編集・発行G：恩田OB、松村OB、井村OB、斉藤雄OB、新井OB
② 50周年記念登山計画・実施G：三木OB、斉藤洋OB、鈴木明OB、渡辺征OB
③ 50周年記念パーティー計画・実施G：清水OB、卯月OB、佐藤嘉OB、笠原OB
④ 50周年記念グッズ企画・販売G：池田OB、小島閑OB、関根OB

現役の山行活動の報告

新学期になりまして現役は中村達幹事長を中心に活動メンバーは約10名です。どうしても毎年メンバーが入替わる学生クラブの宿命です。今年の新人は現在４名で今後の成長が期待されます。

2004年後半から今年前半の活動概略

11月は冬山山行の南ア塩見岳偵察山行を２回行っています。
12月富士山雪上訓練は渡辺征OB、天野OB（Ｈ５）も同行し、指導にあたった。
12月冬山南ア塩見岳は三伏峠から塩見岳往復。中村L以下７名が参加した。
２月に八ヶ岳縦走Pと赤岳鉱泉から赤岳、硫黄岳Pの２Pで、特に縦走Pは２年野村、伊藤の２年生コンビの強化を計った。赤岳鉱泉定着Pに井村OBが同行した。
５月残雪期は谷川岳と白毛門山。６月新人合宿は南ア甲斐駒ケ岳黒戸尾根を登る。
今年の夏合宿は南ア全山縦走P４名（新人１名）と飯豊連峰縦走P６名（新人３名）です。
今後ともOBG皆様のご指導とご援助を御願い致します。

2005年新年会の「返信はがき」からのOBGの近況

☆昨年は数十年振りに羅臼，斜里岳に夫婦で登りました。三ッ木信二（S33）☆会報有難う御座います。楽しく読ませていただいています。早川さんに昨年の高尾山でお会いしたばかりでした。ご冥福をお祈り申し上げます。上田敦子（S34）☆気象部OGから霧ヶ峰での雪合戦の誘いあり、久し振りに雪山を楽しみにしています。宮野準治（S34）☆病院で療養中です。稲山会通信を読み聞かせましたら目を輝かせておりました。小林庸晃（S36）・奥様☆毎月山に登り青春しています。夏は本橋OBと幌尻・十勝の予定。広瀬舜一（S36）☆昨年9月インドネシアより帰国しました。三木常靖（S36）☆最上山岳会（新庄市）で頑張っています。五十嵐守（S37）☆３月までもっぱらスキーです。12月ニセコ、赤倉2月奥志賀3月ニセコの予定。井上昌代（S39）☆昨年の山は39日間でした。チロルに10日、2000～3000mも登り収穫でした。田野辺親遠（S39）☆同期の仲間とボチボチ山登りを再開しました。稲吉豊（S40）☆山はハイキングを年２～３回。今年は会津駒を秘かに考えております。小島俊一（S40）☆昨年12月現役と富士山雪訓に参加、8合目で雪が少なく充分な訓練が出来ませんでした。若い学生に若さを貰っています。渡辺征二（S42）☆昨年は大病で山登りが出来ませんでした。正月大山に下から登りました。１年振りの登山となりました。太郎良博（S43）☆４月に山梨県に転居します。皆様のご活躍と会の発展をお祈り致します。森逸岳（S48）☆昨年の主な山行・１月八方尾根スキー、３月巻機山（山スキー）箕打OB同行、５月燧ケ岳（山スキー）箕打OB同行、６月守門、10月常念、11月鍋割山。松村幹雄（S48）☆仕事に追われ、山とは程遠いこの頃です。里方昭彦（S58）☆茅ヶ崎市十間坂１－３－47　クレアシティー湘南603に引越しました。西本英世（Ｈ３）☆昨年は大戸岳（会津若松最高峰）の山開き。唯一の山行でした。今年はもっと山に行きたいと思います。新井英明（Ｈ５）☆社会人１年目で仕事に励んでいます。今回は欠席致します。会費を納めていませんがどうしたら良いでしょうか。佐藤貴俊（H16）

雪の赤岳登頂記

金子　治雄（S41）

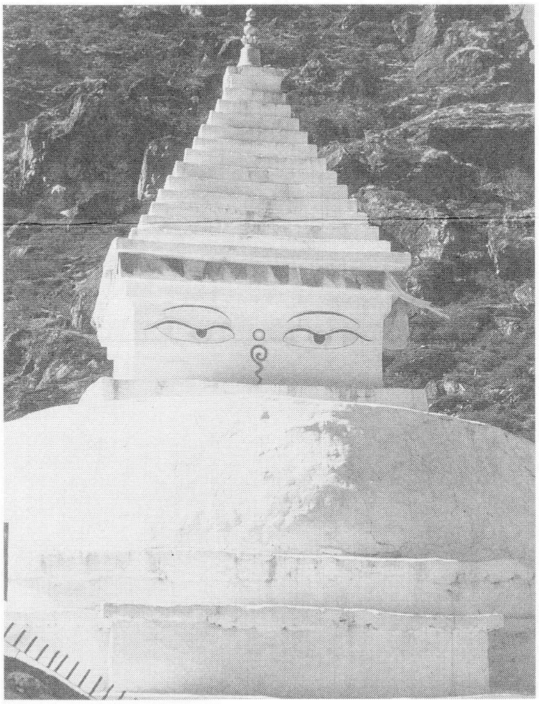
41年卒同期の斎藤、小田、杉村、稲吉、金子の５人で４月初旬の雪の赤岳に登りました。山を再開した時から雪の赤岳が再開の試金石になるとは皆心の中で感じていました。昨年11月に同期８人で赤岳に来た時も雪山の偵察を兼ねていると考えていましたし、再開後初めての冬山だった12月の北八つ天狗岳も、２月の雪の川乗や縞枯でのテレマークスキー講習後にアイゼンで登った北横岳も、雪の赤岳に登るためのトレーニングの意味合いが強かったと思います。今回は岩場の下りの安全を期して共同で登攀用具を購入しました。参加者５人揃って秀山荘に行き最新技術の教えを請いながら８mm30mザイル１本とエイト環、各自共通でベルトハーネス、支点用としてベルトスリング、自己確保用としてロープスリング２本と同数のカラビナを購入しました。これで最長25m中間支点５箇所のフィックスを可能にしました。長い間ザイルに触れていなかったため出発の１週間前に公園で斎藤、小田と３人でザイルさばきの練習を行い、直前に登った松村先輩からは雪の状態とコースタイムもお聞きしました。文三郎尾根から赤岳登頂の日、心配した天気は何とか半日持ってくれて強風の中、無事ピークを踏むことが出来ました。ピーク直下の下りではザイルをフィックスし余裕を持って下りましたが、やはり歳は争えず、下りの安全牌として選んだ筈の中岳の稜線では左右にすっぱり切れたナイフリッジが突然出現し、その通過には緊張を通り越して恐怖すら覚えました。ルンゼはともかく、体が宙に飛び出すリッジでの恐怖感はも

う克服出来ないなと言うのが仲間との結論でした。改めて振り返って見ると山を再開した当初はこんなに早く雪山に行けるとは予想もしませんでした。一昨年の秋中村さんの乗鞍追悼山行に参加し、ピークからの下り道で何十年振りかでお会いした井村先輩から同期の方々と雪山を登っているお話を初めて伺いました。行きたいと想いつつも体づくりから始めなければならず無理かなと想っていた山を、昔一緒に登った直ぐ上の先輩たちが今でも元気に登っている、しかも冬までも。ショックでした。話をお聞きしながら目の前に雪の稜線が浮かんできました。ようやく心の準備が整い昨年１月から同期の杉村と高尾山、大岳山、丹沢馬鹿尾根と月１で体づくりを始め、７月には小田が加って白馬に行き、９月に斎藤、小田、秋野との谷川、10月の穂高は台風襲来のため中止となりましたが、この頃渡辺征二兄に天狗の詳細なデータを頂き、冬の天狗位は登れるのではないかと気持ちが盛り上がりました。12月に入ると皆、冬山に備えて10～12本爪アイゼンやピッケル、冬靴、ウエア等冬山装備を整えました。こうして始まった雪山ですが、友との間に40年の時間の空白を感じたことが全く無いことも不思議でした。悪場に差し掛かり、確認のため後ろを振り返ると友たちの余裕の顔が見えます。昔、苦楽を共にしお互い技量が判っている仲間がいたからこそ、還暦を過ぎても不安無く雪山が実現出来たのだと想います。そうして雪の赤岳から１ヵ月後、５月の連休の最終日、斎藤、杉村、稲吉、金子の４人で良く晴れ上がった雪の唐松岳のピークに立ち、白馬三山、五竜、鹿島槍、剣、立山など懐かしいアルプスの雪の峰々に対面しました。それはかってもう見ることは出来ないだろうなと半ば諦めていた迫力溢れる雪のアルプスの変わらぬ美しい光景でした。

ヒマラヤ・エベレスト周辺のトレッキング散歩

井村英明（S40）

時間が取れたのが幸いと11月28日カトマンズ、翌日は運良く小型機でルクラへ、トレッキング・ガイドとシェルパの村・ナムチェバザールへとエベレスト街道を歩き始める。２日目には3440mのナムチェに着く。今回はトレッキングが主な目的でなく、60歳を過ぎた「おやじ」が頑張れば登れる6000m峰を見たくての１人旅だ。ナムチェの夜明けは素晴らしく、エベレストを初めとしてローツエ（8414m）、アマダブラム（6856m）、タムセルク（6608m）、パルチャモ（6273m）、カテンガ（6685m）の白い峰々が朝日に深紅に屹立している。ナムチェで１日の高度順化日でチョルテンの丘から写真を撮ったりし、翌日は途中のエベレスト・ビューホテルでコーヒーを楽しみ、エベレスト初登頂のヒラリー学校があるクムジュン村（約3800m）に向かう。ゴンパ（寺院）で雪男の頭皮を見学。ラマ僧が「ご寄進を」と催促するので、箱に５ルピー（約50円）を入れて「Thank you」とラマ僧に手を合わせる。今日も高度順化で、高度障害も出ないので、翌日は4000mを越える。一度



4000mのモンラ峠から雪の谷を下り、チョオユー（8000m）を望みながら、午後遅く約4300m付近のロッジに宿泊する。再会した１人旅のドイツ青年は高度障害で辛そう。ここからアイランド・ピーク（6187m）も見たいので、ルートを変えて、エベレスト街道の対面の尾根筋をパンボチェへ向かい、翌日、更にデンボチェ（約4500m）へ登る。いつも優美なアマダブラムが朝に夕に迎えてくれるがうれしい。更に5000m近く迄登ると山間からアイランド・ピークを見ることが出来た。ここからアイランド・ピークBCまで１日の行程だ。この山は比較的易しく、人気があるが、登攀的にはあまり魅力がわかない。下山の途中、ゴンパで有名なテンボチェ（3860m）に泊まり、夕方、エベレストで遭難した加藤保夫氏の慰霊碑に冥福を祈った。昔、谷川岳の遭難救助で一緒だった事があった。慰霊碑は大分古くなって、夕暮れに寂しく立っていた。翌日ナムチェで１泊し、ルクラに戻った。「ネパールは文明が遅れているが、いまだに宗教文化が息づいている王国だ。」

＊エベレスト山域の6000m峰について＊

一般的に「トレッキング・ピーク」と呼び、ネパール山岳協会が登山許可。全部で33座。登山料はUS350～500ドル。パルチャモ（6273m）はナムチェから２日でBC予定地、ACを雪のテシラプチェ・コル（5755m）。その上は幅の広い雪稜を登る。技術的には難しくないが、大きなクレバスに阻まれて失敗したケースが報告されている。三浦雄一郎氏もエベレスト登山の前年パルチャモに登っている。登山時期はプレモンスーンの４～５月か、ポストモンスーンの10月は天候が良く、登山期間はトレッキング期間も入れて約20日位と手軽で、小グループで楽しむには適している。技術的には冬の八ヶ岳レベルである。この地域は他にもアイランド・ピーク（6187m）、メラ（6476m）クワンディ・リ（6187m・ナムチェ村の目前の山）。ロブジェ・イースト（6090m）等目白押しある。

＊個人登山装備は日本の冬山程度で充分だが、登山靴は２重靴が望ましい。共同装備は全てカトマンズで調達かレンタルが出来る。敢えて日本から大量に登山装備を持込む必要がない。装備の移動はアプローチ、登山ともポーターかヤクを使う。

＊登山はクライミング・ガイド（シェルパ）とアシスタントがつき、ルート工作等の登攀リードが出来る。今回同行したトレッキング・ガイドもアイランド・ピーク、パルチャモを登っているし、彼がカトマンズで全てをアレンジしてくれる。

＊高度障害は体質にもよるが、徐々に高度に馴らして行くしか方法がない。今回のトレッキングは出発前に富士山に３回、低酸素室に４回、登山中は「ダイアモックス」（納見OBの寄贈）を服用した。5000m迄幸いに一度も頭痛など高度障害は出なかった。

訃報：２月20日に沼尻　勉さん（Ｓ36年）が逝去されました。故人の偲び、ご冥福をお祈り致します。
（事務局へ通知分のみ）

編集後記

毎年２回は稲山通信を発行しようと役員会は努力しております。山の現役として今も山に登っている元気なOB、また現在、山から遠ざかっているOBと各人の環境などが様々です。これからは山の記事だけではなく、趣味を含めた幅広い記事も歓迎いたしますので、投稿を宜しく御願い致します。また各研究部OBの会、同期の集いも多いと聞いておりますので、簡単で結構ですので、どしどしご投稿下さい。メール等で結構ですので気軽に投稿下さい。

編集委員一同